



『感謝』

牧野 眞神父

私の前任者スミス神父様は、一年働いたころ、一ヶ月の休暇を取り帰国しました。そこで新たな病気が見つかったので、療養のため日本へ戻ることが出来なくなりました。そのスミス神父様の後を引き継いで、私は、また五年間皆様とともに働くことができました。その間色々な出来事がありました。

思い浮かぶのは二〇〇三年六月の城北橋聖心教会の献堂五十周年のお祝いです。また、私の入院のとき、お祈りと暖かい励ましで支えて頂き、ほんとうにありがとうございました。心から感謝とお礼を申し上げます。

六月末に四日間、韓国へ行ってきました。聖心布教会の会員が働いているところのうち、四ヶ所、ウルサン、釜山、ソウル、カンワウルサンにあるみこころ布教会が経営する「少年の家」についてお話しします。釜山空港から車で一時間のところに、その児童養護施設がありました。ここでは、小学生から中学生までの男の子十人を施設長のパウロ金神父、職員二人とボランティアのドイツ人青年がお世話していました。経済不振の影響で、ストリート・チルドレンが増えている、警察がその子供たちを保護すると、一時的に児童養護施設へ預けに来るそうです。そうすると、養護施設の子供たちと一時保護預かりの子供たちとの間で、暴力などの問題が多発するので、金神父の提案で、隣接地にもう一棟新しい施設を建てて、子供たちを別々に分けてお世話することになりました。

すでに新しい工事が始まっています。総工費四千万円のうち、六五％は支払い済みで、残り三五％に当たる一千四百万円の支払い

予定日は十月末とのことです。

金神父は、小教区の夕方のミサを引き受けたりして資金集めにがんばっていました。この施設は、昨年一月に聖心布教会のシスターから引き継いだばかりと聞いて、パウロ金神父の頑張りに感動しました。

皆様からいただきました大切な餞別は、ウルサンの「少年の家」に送らせていただきました。皆様の暖かいお気持ちに心から感謝いたします。

※牧野神父様の送別会の様子は、行事報告（P21）で紹介します。

